校長室だより～燦燦～ №４０９

リモート授業

2021.8.19

昨年度の４月に、娘が大学に進学した。だが、入学式はなく、大学構内、キャンパスに入ることも叶わなかった。授業は、オンラインでスタートした。大学の先生方も初めてのことで慣れておらず、トラブルは多かった。それでも、その度ごとに改善されていき、５月には軌道に乗った。

野田中学校では、７月に同様のことが始まった。トラブルは起きなかった。それは、H先生の存在による。いつでもリモートによる授業ができるようにと準備を進めてくれていた。誰が、本校初のリモート授業を行うかという段になり、ＳＳ先生が意欲的に手を挙げてくれた。

というわけで、本校のリモート授業は英語からスタートした。数学と理科そして国語がそれに続いた。皆さん経験豊富な先生方である。積極的に取り組んでくれた。ありがたい。

ＳＳ先生の英語のリモート授業を生徒の身になって視聴した。正直驚かされた。とても初めてとは思えなかった。学習塾の先生でもやっていたのか。そう思わせるものだった。あんなにスムーズにできるものなのだろうか。

H先生とこんなことを話した。「すごいね。塾の先生でもやっていたのかね。きっと準備をしてくれていたんだろうね」生徒にとっても、初めてのリモート授業である。ＳＳ先生の英語の授業が、リモート授業の基準となる。ＳＳ先生の授業で、生徒はリモート授業の良し悪しを判断するわけである。

H先生とは、こんなことも話した。「私がいろいろやるのはいいんですが、私がいないときとかに困らないようにしたいんですよね」「そうなんだよね。ミスターHだけでなく、ＩＣＴチームにしたいんだよね。そうでないと、H先生がいないだけで、機能停止になってしまうよね」

本校のＩＣＴ担当を確認すると、H先生の他に、各学年１名ずつ、計４名である。メンバーは、見事にその学年で一番若い先生となっている。非常にわかりやすい。若ければ若いほど、ＩＣＴに関しては理解度、習得度が高いということだろうか。今の学校は、一人のスーパーマンの活躍に頼るのではなく、組織で動けなければならない。組織力、チーム力がカギとなる。

ＳＳ先生は、このＩＣＴ担当に入っている。彼に伝えた。「生徒指導で生徒指導主事の先生を一人にしてはいけないと言ったでしょ。ＩＣＴも同じ。H先生を一人にしてはだめだよ」と言いながら、自分が何もできないことは十分に自覚している。ＳＳ先生も「やらなくちゃいけないんですよね」と自分の立場は理解しているようであった。

H先生の後継者養成とまではいかないが、彼の今後に期待したい。ＳＳ先生が、H先生に教わりながら本校で身に付けるスキルや知識は、必ずや今後の彼の教員人生を助けるはずである。それは、彼の引き出しの一つとなり、武器となるであろう。

本校におけるリモート授業の目途が立った。これは大きい。これからは、H先生を支える、補助できる人材を育成し、チームや組織の力でＩＣＴを推進していくことが求められる。めざす姿として、５０代の先生方が、気軽にリモート授業を行っている様子が浮かんでくる。その日は、そう遠くはない。